

選ばれなかった道



Cettia_diphone (Wikimedia Commonsより)

赤い桃の花、やがて、白い雪柳、うぐいすが回らぬ舌で春を呼んでいる3月は卒業式です。この美しい季節は、希望を抱いて、凜として旅立っていく若者達に、どのような「贈ることば」がふさわしいのか、思いあぐねる時期でもあります。

今年、ロバート・フロストの詩『選ばれなかった道(The Road Not Taken)』の一節を紹介しました。

ずっとずっと昔、森の中で道が2つに分かれていた。そして、私は、あまり人が通っていない道を選んだ。そのため、どれほど大きな違いができたことか

ネットでは、「この詩は『あまり人が通っていない道』を選び、

自分で切り開いていく、開拓者魂を表しており、米国の教科書にもよく採用されている。」との趣旨の解説が多く、「贈る言葉」としてふさわしいと思っただけです。

それで、原文を検索し、読んでみることにしました。

韻の響きが美しい原詩を、繰返し読んでいくうちに、米国東部の秋色にそまった幻想的な森の「分れ道」が思い浮かんでいきます。が、そこには開拓者魂といった力強さは感じることができません。

それで、詩の解説をしている英文サイト(Shmoop.com/poetry)をみてみると、概略次のように述べられていました。

作者が選んだ「人があまり通っていない道」の方にある、「選ばれなかった道」は、「皆

が通っている道」であろうとなかろうと、ただ「自分が通らなかった道」通ることができなかった道」であり、後戻りして通ることが出来ない道なのである

この解説と作者のプロファイルから、第一次世界大戦中にこの詩を発表したフロストは「度々しかたない人生、やり直しがきかない人生のはかなさや厳しさを、足早に冬に向かう秋色の森の情景として、詠っているのだと感じ入りました。

何度も読み返し、30年ほど前、ゼミの学生に翻訳の授業をしていたときのような、純粹な気分浸っていました。

卒業式では、フロストの詩の一節を紹介したあと、次のよう

に話しました。

皆さんは、これから何度も大切な人生の分岐点に立つ事でしょう。その時々、自分の心の声に耳を澄ませ、信じる道を選んで下さい。

そうすれば、ずっとずっと先になつて、「あの時あの道を選んでいた」と思う事があっても、後悔することは無いでしょう。「卒業という美しき別れかな」皆さんの洋々たる未来を祝福します。



Autumn_Colour_Delamere_Forest_-_geograph.org.uk (Wikimedia Commonsより)

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文